



読書交流会、スタートしました!

7日、4年ぶりの読書交流会を実施しました。今回は年長さんと図書委員さんが交流。みんな、いつも以上に優しい表情で絵本を読んだり、寄り添ったりしてくれていました!



お話玉手箱 リモート実施!

夏休み明けからプレハブでの生活が始まりましたが、なんと、一時的に放送室の放送機器が使えない状態になっていました。

そこで、6日の「お話玉手箱」は、初めてのリモート実施。

放送委員さん以外は、初めて読まれている姿を見ることができましたね^^

毎回、何度も練習を重ね、放送での朗読を

されています。みんなの想像が膨らむよう声の演技をしすぎず、聴きやすい声で読んでくださ

っています。通常の放送に戻りましたが、これからも静かに朗読を楽しんでくださいね。



ポーっと聴いていてお話が分からなくても、まだ遅くない!?

いまココ! 『ギソク陸上部』山下白、学研プラス

ユイング肉腫で右足を切断した陸上部の成瀬颯斗。手術後、戸惑いながらも学校には復帰したが、みんなとの壁を感じ陸上部も退部してしまった。ある日、義肢装具士の近藤さんから、パラ陸上の大会で義足のパラリンピアンを紹介され、走ることに再び希望を持つ。そして、クラスメイトの川村さんと急接近し…。

前回の放送後「今日のはキュンだった!」「川村さんって、どんな子ですか!？」

(挿絵の確認)と、図書館に言いに来るひとが何人もいました^^





あたらしい本



73冊入りました！一部を紹介します。19（火）から貸出開始！



『10代からのメンタルケア「みんなと違う」自分を大切にする方法』

本田秀夫 (KADOKAWA)

まわりの子と自分を比べて自信が持てない…「自分はだめだ」と思っていないか？「グループに入れない」「部活でみんなのようにはがんばれない」「一人が楽」など困りごとに合わせたアドバイスを、マンガと文で分かりやすく説明。



『VISION 夢を叶える逆算思考』三笠薫 (双葉社)

サッカーワールドカップ、スペイン代表選での決勝ゴールをアシストした「三笠の1ミリ」が世界的に話題となった三笠薫選手。普通のサッカー少年だった三笠選手が、どのように日本を代表する選手にまで成長し、世界で評価されるようになったのか。三笠選手を形作った夢を実現させるためのブレない考え方や生き方についての120のヒント。



『トゥルー・カラーズ』(講談社)

女子校に進学した私。男子の目を気にしなくていいし、最高！と思っていたら、共学に進んだ大好きな幼なじみに「好きな人」ができたとき…（「女子校か共学か、それが問題だ！」小林深雪）

お父さんは悪い人じゃない。でも、一緒にお風呂に入りたがったり、スカートをめくろうとしたり、ちょっと疲れる。そんなある日、クラスメイトのみやびが父親から暴力を振るわれていることを知る。私のお父さんなんて、全然マシなの…？（「チキンとプラム」長谷川まりる）

心と身体を取り巻くもどかしさを描く、6人の作家のアンソロジー。



『目で見ることばで話をさせて』アン・クレア・レゾット (岩波書店)

19世紀初頭、難聴者も聴者も誰もが自然に手話で話をしていたというアメ

リカの実在の島を舞台とした物語。耳の聞こえない11歳の少女メアリー

は、その島でいきいきと暮らしていた。一方で、馬車の事故で亡くなった兄の

ことが頭から離れない。ある日、科学者に誘拐されたメアリーは、ことばと

自由を奪われて…。

裏もあります！